

「元気な会社」にする為に②

1. 「入るを図りて出づるを制す」

右掲は、前号でもご紹介しています私が考える「元気」である為の『3つの実践』であります。その内、前号では「健康」という視点で、組織的な注意点を書きました。今回は、「経済的に心配がない」をとり上げたいと思います。この「経済」という要素も同じように、個人的にも組織的にも重要な事なのです。

『3つの実践』
1. 健康増進への努力
2. 経済的に心配がない
3. 精神的に自由である

すなわち、「安心して日常活動が出来る」という事が非常に重要なのです。「安心して」の反対の状態は、過度の借金状態に陥り支払いに迫られる状態と言えます。企業でも個人でも、過度になると借金返済の重課に押しつぶされそうになるのです。そのような状況になると分っていても、健康を害して急なお金が必要になったり、例えば、遊興に興じてしまって借金地獄に陥るサラリーマンもいるのです。京セラ会長の稲盛さんは、JALの再建に従事されていますが、「入るを図りて出づるを制す」は経営の常識とおっしゃっていますが、企業ばかりではなく、個人も同じなのです。

「人生設計」という手法がありますが、何歳の時に子供が入学するなどのイベントを書いて行くとその時に必要な費用は明確になるのです。私のサラリーマン時代は、'73~'95という22年間ですが、この時代は給料がドンドン昇給した時代であり、クルマ販売の会社に勤めていた事も手伝ってローンで購入するという習性が身につけていました。商品も値段が上昇する背景があったので、ローンで先取りするのも意味があったのですが、実際に経営してみると「支払金利」は銀行員の給料と思うようになり、最近では、クレジットで購入しても1回払いで済ますようにしています。(実は、リボ払いの金利は結構高い)

2. 「ベース・インカム」

では、「経済的に心配がない」という状況をどのようにして作るかという事が課題になります。私個人の場合、「入る」は年金の報酬比例部分と基金の年金が2ヶ月に1度振り込まれるようになりました。さらに、妻も年金が支給されるようになりました。2人合わせると結構な金額になります。「出る」は、3人の子供たちは独立しており、さらに、自宅はマンションなのですが立体駐車場を同時に購入してローンで返済していましたが、昨年、完済しました。クルマのローンも完済しており、残るは事務所のローンがあと1年ほどだけなのです。以後は、自宅・立体駐車場・事務所の管理費が約4万円/月が必要になるだけです。もちろん、「入る」という意味ではお客様から頂く顧問料という事も大きなウエートを占めています。ありがたい事に殆どのお客様は長期契約で安定した収入を頂けるようになってきました。

「安心」=「収入」-「出費」>0を最低限の条件とすると、「出るを制す」というコストダウンの努力と、それに見合う安定した収入を得られるように「入るを図る」必要があるのです。次のサービス・ア

$$\text{サービス・アブソープション} = \frac{\text{普遍的な収益}}{\text{必要な経費}}$$

ブソープションという公式は、自動車販売店時代に目指していたものです。普遍的な収益で必要な経費を賄える状態を100とすると、それ以上であれば、変動する収益を余り重要視しなくて済むのです。分かり易く表現すると、コピー機は、普及台数が多いと消耗品(トナー)や点検・修理の収益

が安定して生まれるので、本体のコピー機で余り儲ける必要がないという事例が理解しやすいと思います。機械が順調に稼動すれば、定期的に消耗品や点検・修理が発生して「日銭」としての安定した収益が出るのです。この「日銭」による安定は、非常に重要です。

最近はこのような「安定」をもたらすという意味で「ベーシック・インカム」という言葉を使い始めています。基本となる収益が「費用」より多ければ、何よりも「安心」できる状態なのです。長期の不況下で企業の投資意欲が減衰する中で、設備機器を販売して収益を確保するのは非常に困難になっており、設備が稼動する事によって消耗する物や備品工具などの販売や点検・修理などのサービスによる収益(普遍性の高い)を得ることによって安定した経営体質にシフトする必要があるのです。

3. 人生設計

安定した収入を得たいという願望は、おそらく全ての人が持っているものと考えます。しかし、今が安定していても「いつまでも・・・」という訳に行かないのです。何故なら、年をとるという事実なのです。若いうちは、幾らでも時間があると思っていたが、62才になると周囲の人がリタイアするようになり、あるいは、病気になったりして「時間」という物の大切さが身に沁みるようになっていきます。

「人生設計」という言葉がありますが、私は、孔子の教えである「我、15にして学に志・・・」で始まる「30才：而立、40才：不惑、50才：知命、60才：耳順、70才：不矩」という人生感で進めて来ました。常に10年先を見る事が大切です。10才年上の人の姿や最新技術が切り開く展望などを見て、今なすべき事を知るのです。これは、現実とのギャップがあるので、同時並行では、なかなか進まないのです。まず、「面白い」と思って手をつける事から始めるのです。「面白い」がなければ、続く事が難しいのです。また、その時に着手しないとキッカケを失うのです。

「人生設計」と言うと絵空事を描くような感じですが、年をとるという事は間違いない事であり、その準備をしていかないと慌てることになりかねないのです。経済的にも同様です。10年先に必要な事柄、例えば、結婚や子供の出産、入学などは確実に来るのです。その時に必要な事柄を知っておけば、長い時間をかけて準備できるのです。企業も同じと思います。社員さんも年をとるのです。定期的に若い人材を確保しないと「高齢化」するのです。若い人に魅力のある企業にする為に「為すべき事」がハッキリしてくるのです。「先を読む」という事が重要なのですが、確実な事柄を読めるのは「年齢」くらいです。その事実に従って、少しずつ準備して行きたいと思います。

【まとめ】

1. 「入るを図りて出ざるを制す」には「人生設計」(企業なら長期計画)が必要
2. 「ベース・インカム」が安定して、しかも十分であれば経済的な心配はなくなる
3. コピー機のように機械よりも消耗品や修理サービスで安定した収益を得る
4. 「人生設計」は個人の先読みとして重要

【AMIニュースのバックログは<http://www.web-ami.com/siryu.html> でご覧になれます！】